北海道短期大学
●専修大学北海道短期大学」ホームページ●
http://www.senshu-hc.ac.jp

メールアドレス
nyushi@senshu-hc.ac.jp
ダイヤルイン
（入試関係）
0126-63-0123

盛夏の北海道を満喫

学生部主催「ラベンダーツアー in 富良野」

▲　紫一面のラベンダーを前に

「ファーム富田」でラベンダー園見学

好天に恵まれた7月19日、学生部主催の「ラベンダーツアーin富良野」が行われた。学生約30人が参加し、盛夏の北海道を満喫した。

この企画は北海道の景勝地を訪れ、自然や伝統を体感することを目的に、毎年開催されているバスツアーの一つ。最初の目的地「ファーム富田」では、富良野地方最大規模のラベンダー園を見学。学生たちは「彩りの畑」や「倖の畑」などで、今が盛りと咲き誇る〝紫のじゅうたん〟を目にし「ここだけでしか見られないぜいたくな眺めです」と感動の言葉を口にしていた。

この後、新富良野プリンスホテルに隣接するショッピングスポット「ニングルテラス」に移動。森の中に作られた工芸品や民芸品のコテージでお土産を買うなど、楽しいひとときを過ごした。

▲　㊤「ニングルテラス」にて
㊦ぜいたくな眺め思い出に

'08 OPEN CAMPUS

9/14(日)
10/5(日)

開催時間
11:00〜14:30

学校見学、体験授業、個別相談などを開催

『私たち学生スタッフが皆さんをご案内します』

- 当日は、JR札幌駅北口・美唄駅西広場より送迎バスを運行します。
- 交通費補助制度があります。詳しくは入試係まで。

▲　砲丸投げで初優勝した土本さん

第55回北海道地区大学体育大会

土本、砲丸投げで初優勝

陸上競技部が好成績

第55回北海道地区大学体育大会が7月4日から19日まで、北海道の大学、短期大学が参加して、小樽市を中心に行われた。本学は全11種目中6種目に出場。陸上競技大会（19日、同市手宮公園陸上競技場）の砲丸投げで土本翔太さん（みどりの総合科学科2・北海道常呂高）が初優勝を遂げた。

円盤投げで土本さんが、砲丸投げで柳沼和幸さん（みどりの総合科学科1・北海道美幌農業高）が、走り高跳びで太田祐樹さん（商経社会総合学科1・北海道函館商業高）がともに3位と、陸上競技部が好成績を残した。

また、12日に同市総合体育館での柔道大会（5人制団体戦）では、柔道部が準優勝を果たした。

工藤正義監督が「6月の全日本優勝大会出場を機に、選手たちの取り組む姿勢が変わった」と話すように、順調に勝ち進んだ。決勝の道都大戦では66kg級の中田賢人さん（商経社会総合学科1・北海道美唄工業高）が100kg超級の相手に一本勝ちするなど、奮闘したが一歩及ばなかった。

他の種目では、サッカー部が昨年に続きベスト8入りした。

▲　柔道部は準優勝

第12回北海道短大「道央支部懇談会」

第12回専修大学北海道短大同窓会道央支部の懇親会が7月11日、札幌全日空ホテルで開かれた。同窓生をはじめ、大学関係者ら約40人が出席し、旧交を温めた。

井鳥隆支部長（昭49農業土木）、新家憲学長のあいさつの後、同窓会の英伴会長（昭49農業土木）の発声で乾杯。両学科長、田中貞美名誉教授、吉田一男名誉教授をはじめ、田中勝美・元本学東京事務所長、南繁夫・元専大北上高校常任理事ら多数の来賓も駆けつけ、同窓生と歓談。お互いの近況を報告し合った。最後に常松哲・元土木科教授（現・㈱イーエス総合研究所代表取締役）の音頭で短大の発展を願い万歳三唱し、散会した。

▲　約40人が出席し旧交を温めた

「専修大学ハスカッププロジェクト」発足

商工会議所と連携┐└──「日本一」発信

本学は、ハスカップ生産量日本一を誇る美唄市の美唄商工会議所と連携し、「専修大学ハスカッププロジェクト」を立ち上げた。7月4日には、キックオフイベントが「ピパオイの里プラザ」で開催され、関係者や市民ら約70人が出席する中、活動計画を発表した。

▲　ブランド化目指し、研究分野を担う

これに先立ち、「美唄＝ハスカップ」のブランド化を目指し、本学と美唄商工会議所、北海道立林業試験場、美唄地産フード研究会などによる産学官・市民一体の「ハスカップネットワーク美唄」が発足。6月16日の設立会では、メーン事業に同プロジェクトを位置づけ、学術・研究分野を拡充し、今後は生産量を含め、名実ともに「日本一」であることを発信していくことを決めた。

キックオフイベントでは、研究チームの寺本千名夫副学長（商経社会総合学科教授）がアクションプランを発表。プロジェクト発足の経緯と、活動計画として①研究成果のフィードバックを目的とした栽培試験農場の開設②ハスカップと関連商品の流通構造調査③シンポジウムの開催、の3点について詳細に説明した。また、地元有志からハスカップの苗が寄贈され、研究の発展とさらなる連携強化を誓った。

専大ファーム便り　第10回

農場は楽し！

作物の生育は最盛期へ

第2農場に行き、いろいろな作物が一生懸命成長しようとしている姿を見ながら、秋になれば皆さんに食べてもらい、おいしいと言っていただくことを考えると作物生産の喜びもひとしおで、農家の生きがいを体験することができます。

専大ファームは面積を拡張して2年目です。本年までは化学肥料・農薬不使用の特別栽培で、来年の3月からは、いよいよ「有機栽培」が認定されます。

今年度の播種（はしゅ）、移植がすべて終わり、播きつけ祝いも終え、作物は生育の最盛期を迎えています。

昨年を振り返ると大面積でも良質の農産物が生産され、馬鈴薯（ばれいしょ）、かぼちゃ、トウモロコシ、枝豆の他、量は少ないが、すいか、メロン、ピーマン、なす、ミニトマトも採れました。特産の農産加工物として、ラーメン、そば、韃靼（だったん）そば、大豆のドンを学内販売し、好評でした。これらの実績をもとに本年は関東で専大ブランドとして農産物および加工品の販売を計画しています。より多くの人に本学農場で収穫された作物を賞味してもらおうと思います。

また、農場の見学や体験をしたい方は遠慮なく私にご連絡を。

成田保三郎（みどりの総合科学科教授）

▶　広大なそば畑。下は加工製品「韃靼そば」

▲　勢いよく枝を伸ばすナス